

# いしづち

愛媛労災病院広報紙第18巻第1号

（通巻第87号）

2019年1月5日発行

発行人：院長 宮内文久

## 理念

当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

## 基本方針

1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に推進していくため、患者さんの基本的な『権利と責務』を、以下のように宣言します。

### 【患者さんの権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質な医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利

### 【患者さんの責務】

- 1) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 2) 医療に積極的に取り組む義務
- 3) 快適な医療環境づくりに協力する義務



## 新年明けまして おめでとうございます

病院長 宮内文久

今年は平成31年から新年号に変わるようになっており、何事も新しい気運に満ちた年になることと思います。私達の病院も新編成のもと躍進したいものです。

ところで、急患の患者を診て宿舎に帰るとき、ふと夜空を見上げることがあります。その時、「星の数って一体いくつくらいあるんだろう？」とか、「宇宙の端から端までの時間はいくらぐらいかかるのだろうか？」など興味本位の馬鹿げたことを考えながら歩いていることがあります。

宇宙は約130億年前にビッグバンで生まれたと考えられています。宇宙誕生の瞬間に素粒子とその反粒子が多量に作られ、宇宙誕生から3分後には陽子と中性子が結合して水素や、重水素、ヘリウムなどといった様々な原子核が作られ、宇宙誕生から10億年後までに銀河や銀河団が形成されるに到ったと考えられています。しかし、そのメカニズムはほとんどわかっていないそうです。そして、人類が快適に暮らせる（生命が誕生する）地球は、太陽という星から適当な距離にあり、適当な大きさ、重力、地軸の傾き、適当な自転速度など様々な条件が偶然にも重なりあい誕生したと考えられています。地球が誕生する確率は宝くじで3億円が毎年死ぬまで当たり続けるより、さらに数万倍難しいのではないかと考えている科学者もいます。宇宙が生まれる確率、生命が誕生する星が出現する確率など、全く常識では考えつかないほどのわずかな確率であっても、宇宙ではその確率で出現することが可能なのです。宇宙ではあらゆる何もかもが起こり得る“可能性”があります。どんなに考えられないほどの確率でも、この広大な宇宙と無数の星の集まりからすれば、なんでも起こり得ることになります。

ところで、「確率の話」の延長線上で考えると、医療界では有名な「ハインリヒの法則」があります。一件の重大な事故・災害の背後には29件の軽微な事故・災害が存在し、約300件のヒヤリハットが出現している、とする統計的観察結果から導き出された法則です。宇宙で起こる確率からすると、ハインリヒの法則から導き出された確率は必ず起こりうる頻度だと思われてきます。つまり、私たちは医療事故にいつでも遭遇する可能性があります。自分だけはとか、うちの病院だけはなどと楽観的に考えないで、いつでも起こり得ると自覚して行動すべきなのかもしれません。

それにしても夜の星ぼしを眺めていると、「きらめく星座」「星影のワルツ」とか「星の降る夜は」「星のフラメンコ」とか「見上げてごらん夜の星を」など、また少し変わったところでは「地上の星」とかという単語も頭の中に浮かび上がってきます。宇宙と同じように人間の脳も無限大の可能性を秘めた器なのかもしれません。

愛媛労災病院 脳神経外科での最近の手術	2
臨床工学部のご紹介	3
HCU紹介	3

地域連携懇話会の開催を終えて	4
第5回 市民公開講座開催のお知らせ	4

## 愛媛労災病院 脳神経外科での最近の手術

副院長・脳神経外科部長 福井 啓二

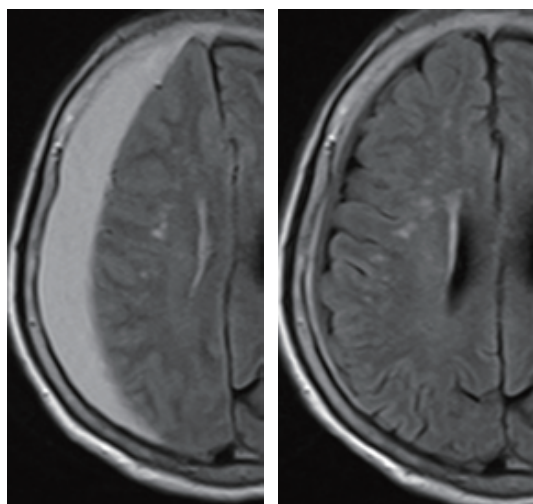
平成27年に脳神経外科診療を再開させて頂いた以降の最近の手術について報告させていただきます。

全身麻酔を必要とする、緊急開頭手術が困難な状況ではありますが、出来る範囲での手術を行っています。

高齢化の進行により、最も症例が多いのは慢性硬膜下血腫です。平成27年以降で、約30例の手術を行いました。

年齢は68歳から99歳で、平均年齢は84歳でした。性別では男性が55%でした。両側の手術例を除いた手術時間は平均で41分間でした。入院期間は半数で10日～20日間でした。再貯留が2例にありました。

一番最近に手術を行った70歳代女性の術前と術後23日目の頭部MRIを示します。



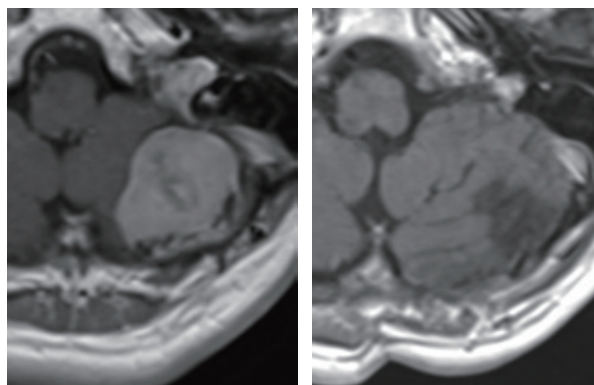
術前

術後

その次に多かったのは、特発性正常圧水頭症に対するシャント手術でした。

脳腫瘍摘出術が3番目に多く、愛媛大学や県立新居浜病院からの応援を受けて、手術を行いました。

60歳代女性の術前と術後1年6ヶ月のMRIを示します。

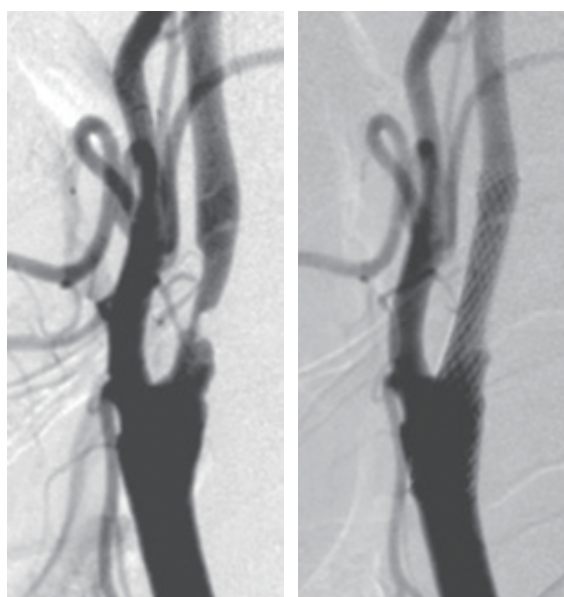


術前

術後

頸部内頸動脈狭窄症に対する血栓内膜剥離術（CEA）や頸動脈ステント留置術（CAS）も愛媛大学からの応援を受けて行いました。

一過性脳虚血発作で発症した、60歳代男性のCAS前後の画像を示します。



術前

術後

当院での最近の手術例を報告させていただきました。

今後ともよろしく願い申し上げます。

## 臨床工学部のご紹介

臨床工学技士 青木 究

皆さま、「臨床工学技士」ってご存知でしょうか？1987年5月に制定された「臨床工学技士法」に基づく医学と工学の両面を兼ね備えた国家資格者であり、医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う事を業としている医療機器の専門医療職種です。

当院でも4名の臨床工学技士が安心して安全な医療を提供するべく、チーム医療の一員として従事しています。

基本的には裏方的な職種であり、患者様と接する機会は多くはありません。しかし、医療は日進月歩で新しい機器や技術が導入される為、学会参加や自己研鑽を怠らないように励んでいます。

血液透析・心臓カテーテル検査・ペースメーカー・人工呼吸器などの高度な医療機器を使用する場所では、我々臨床工学技士が治療のお手伝いをさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。



木戸副院長を部長とし、4名が働いています。

## HCU 紹介

HCU 看護師長 長野 綾子

HCU（高度治療部）は4床の病床数を有しており、高度治療部専任医師1名、看護師16名で、高度治療を必要とされる患者様の治療、看護を行っています。HCUでは、主に急性心筋梗塞、心不全、呼吸不全などの循環器科、外科や整形外科の手術後の管理が必要な方、急性期脳梗塞、脳出血や脳腫瘍術後の脳外科の患者様などが入室されています。

HCU以外でも救急外来での救急患者の対応も行っており、救急医療の現場に携わる看護師に

必要な状況把握と「温かな心」を忘れず日々の看護を行っております。緊急入院された方に対しては、患者様、ご家族の意向も伺いながら回復に向けての援助をし、病棟と連携をしながら退院に向けての支援ができるよう取り組んでいます。

寒い日が続く中、「胸が痛い」「息苦しい」など、体調が悪い時は早めに病院を受診してください。粒ぞろいの看護師を筆頭に労災病院職員一同お待ちしております。





## 地域連携懇話会の開催を終えて

医事課長 久保 近 敏



平成30年11月8日(木曜)にリーガロイヤルホテル新居浜にて地域連携懇話会を開催しました。この会は、愛媛労災病院と地域の医療機関の皆様との医療連携をより密にすることを目的に毎年開催しております。今年度は、地域の医療機関の関係者の皆様103名の方々にご参加いただきました。

懇話会で、(1)脊椎圧迫骨折の治療(～BKPを中心に～)  
(2)入退院支援センターについての講演を行いました。

続けて開催した意見交換会では、当院各診療科医師により、当院の特長等を地域の医療機関の皆様にご説明させていただきました。

今後も地域の医療機関の皆様との連携をさらに密にし、地域医療に貢献できるよう努力していく所存です。これからも、愛媛労災病院との地域医療連携について宜しくお願いたします。

## 第5回 市民公開講座開催のお知らせ

平成30年度の市民公開講座は、「フレイル対策で健康寿命をのばそう～カギは栄養×運動×社会参加～」をテーマに開催いたします。今年度は、当院の職員に加え、共催いただく新居浜市からも講師を迎え、健康寿命をのばすためのカギとなる3つの視点から講演を行います。市民の皆様の健康を支える一助となるような、充実した講演会にしたいと考えておりますので、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

会 場	次第 第一部 「食から始めるフレイル予防」
新居浜市民文化センター	「防ごうオーラルフレイル
中ホール	歯と口からはじめるアンチエイジング」
日 時	第二部 「脱フレイル！のばせ健康寿命！」
平成31年2月16日(土)	「今からでも間に合う！コツコツ筋トレ」
13:00～15:30（開場12:30～）	「フレイル予防も健康長寿地域拠点で！」



広報誌編集メンバー 委員長：福井副院長 委員：山田第2内科部長、今田看護副部長、荒井看護師長、横井看護師長補佐、加地看護師、西山薬剤師、西原作業療法士、正岡診療放射線技師、井上臨床検査技師、住本総務課長、岸本総務課員、中山診療情報管理士、椿総務課員